

「産学連携」など探る

包括協定締結 3年目を迎え

室蘭工大と
東京都市大

室蘭工業大学と東京都市大学が、水素エネルギーの研究などをテーマに包括連携協定を締結して3年目に入った。教育プログラムの共同実施にも取り組み、すでに欧州海外研修を実施。今後も教育研究や地域活性化での連携が進みそうだ。

両大学は平成19年12月、水素エネルギーの研究などをテーマに包

括連携協定を締結。20年9月には文部科学省の戦略的産学連携支援事業の採択を受け、各種の連携事業を進めている。

このうち、共同教育プログラムは昨年8月下旬に新冠町で行われた農業実習が初めての取り組みとして注目を集めた。室工大が14人（マレーシアの留学生1人を含む）、東京都

市大学が2人の計16人が参加。酪農、水田、畑作などを営む10農家に寝泊まりしながら、農業実習を体験して交流を深めた。

今年3月には4年ぶりに実施したヨーロッパ語学研修に室工大15人、東京都大11人の計26人が参加。ドイツを中心にフランス、ルクセンブルク、チェコ

スホステルに宿泊しながら両大の学生が語学研修などを受けた。学生を引率したマルキット・クラウゼ小野准教授は「東京都市大の学生が参加したことで互いに刺激し合っただけでなく、高まった」と分析。次年度も研修を継続する方針だ。



室工大、東京都市大の26人が参加して、大成功だったヨーロッパ語学研修

無断転載禁止

著作権は室蘭民報に帰属します

転載承認済